研究室紹介

遺跡研究室（ 文化遺産研究部）

奈文研に研究所発足当初からあった建造物、歴史の2 研究室に加え 2001 年 4 月に新設されたのが遺跡研究室です。これらの3 研究室をあわせて文化遺産研究部が組織されたわけです。

遺跡研究室の仕事は遺跡の整備に関する調査研究と、庭園史に関する調査研究の2 本柱からなっています。これらの調査研究はこれまでも奈文研の調査研究の一つとして、古くは建造物研究室、その後は平城宮跡発掘調査部計測修景調査室を中心として取り組んできたテーマです。ときに庭園が建造物研究室の主たる研究テーマとなった時期もありましたが、建造物研究室、計測修景調査室ともに本務は別のと

大湯環状列石（ 秋田県鹿角市）の整備状況

ころにあり、遺跡整備や庭園は副業としておこなわれてきた感がありました。今回、それが晴れて独立したわけです。独立行政法人ですから独立することに意義あり、なのであります？

さて、遺跡整備に関する調査研究ですが、まずわが国でおこなわれている遺跡整備の実態を把握する必要があります。「大規模遺跡の整備、管理、活用に関する調査研究」がそれです。日本の遺跡整備は世界的に見ると、特異な手法をとっており、これが諸外国はもとより日本国内においても正しく理解されていないのではないかと懸念されます。つまり、日本では発掘された遺構は保存のためにいったん埋め戻し、その直上に新しい材料で地下に埋まっている遺構を表現する、という手法が主流です。しかし、欧米をはじめ世界の常識は、遺跡では遺構そのものを見せるのがあたりまえです。石や煉瓦からなる遺跡と日本のように木造建物が朽ち果て、土に掘られた柱穴のみが残る遺跡とでは当然その取り扱いが異なるのですが、その事情はなかなか正しく理解されていません。

かっこよく言えば遺跡研究室では日本の遺跡がいかにあるべきか、理念や技術、手法を含めて調査研究し、国内をはじめ、諸外国にも発信していきたいと思います。

庭園に関する調査研究では現存庭園も研究対象としますが、当面は発掘された庭園遺構に関する情報収集、分析検討に軸足を置いた研究を進める予定です。また日本庭園のルーツを究めるために、古代庭園に関する調査研究もテーマの一つとします。

新設の研究室であり、部屋も狭く、予算も乏しい現状ですが、とにかく研究の実績をあげて世の中に認められるよう頑張るしかない、と室員一同（２名ですが）燃えています。